

教育目標(めざす児童生徒像)	今年度の指導の重点
たくましく伸びる子の育成「考える子・やさしい子・明るく元気な子」	①基礎学力・表現力の向上 ②主体的・創造的に取り組む力や態度の育成 ③基本的生活習慣の確立 ④認め合い支え合う仲間づくり ⑤健康・体力の増進

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)	
【学力状況調査の結果】 【全国】 ○国語Aの「ことわざの使い方」の問題は、県平均より高い。(本校88% 県83.7%) ○算数Aの「商を分数で表す」の問題は、県平均よりかなり高い。(本校92% 県77%) ●算数Aについては、県平均と比べると正答率が低い。 ●国語A、国語B、算数Bについては、県平均と比べると正答率はかなり低い。 ●国語Bの「条件に合わせて考えをまとめたり表現したりすること」に課題がある。(本校0% 県36.4%) ●算数Bの「根拠をもとに言葉と式で考えを表現すること」に課題がある。(本校12% 県36%) ●国語Aの「手紙や学級新聞の構成・段落」について課題がある。(本校28% 県42.5%) 【県】 ○3・4年の国語の正答率は、県平均並みである。 ○4・5年算数の正答率は、県平均を上回っている。 ○国語の「読むこと」の領域では、県平均を上回っている。 ●3年算数の正答率は、県平均より低い。 ●5年国語の正答率は、県平均より低い。	【学習状況調査の結果】 ○「将来の夢や目標を持っている」という項目に肯定的な児童が多い。 ○「先生は、あなたのよいところを認めてくれている」という項目に肯定的な児童が多い。 ○「読書は好きだ」という項目に肯定的な児童が多い。 ○読書時間(30分以上)の割合は、県平均を上回り、全く読まない児童はいない。 ○家の人へのあいさつは全ての児童が行っている。また「近所の人に会ったら」の項目に肯定的な児童がかなり多い。 (県) ●テレビ等の視聴時間(2時間以上)の割合が、県平均に比べてかなり高い。 ●家庭での学習時間(1時間以上)の割合が、県平均に比べてかなり低い。ただし、全くしないという児童はいない。 ●「めあて・話し合い活動・調べ学習・発表・文章に書く」といった授業スタイルを行っているかを問う項目に否定的な児童が多い。

成果	課題
○「ことわざ月間」に取り組んだことで、国語Aのことわざの問題の正答率が県平均を上回った。 ○毎週朝学習の時間に、各学年に応じた「読解問題ドリル」に取り組んだことで、文章問題に根気よく向かおうとする姿勢が児童に身に付いてきた。また、読解力も向上しつつある。	●国語、算数とも活用型の問題を苦手としている。 ●記述式の問題に対して、正答率がかなり低くなる。 ●「めあて・話し合い活動・調べ学習・発表・文章に書く」における授業改善をさらに進め、授業者と児童との意識の差をなくすようにする。

何を(改善すべきこと)	いつまでに(成果検証の期限)	どこまで(対象と達成目標の設定)	どのように(方策)	達成状況(12月末現在)	達成度	達成状況(年度末)	達成度	次年度への改善点・重点課題
県の学力調査で正答率が低かった項目・問題	12月	県平均の正答率に達する。	単元後、必ず到達度テストや問題データベースに取り組み、活用型の課題・記述式の課題に多く触れる。再度、県の学力調査問題を解く。	3年算数では、8問中6問において県平均を上回った。4年国語・5年算数では、取り組んだ問題全て県平均を上回った。全体では、2/3の問題において、県平均に到達できた。	B	算数は、3～5年全て県平均を上回った。国語では、どの学年も記述問題が県平均を下回った。	B	朝の学習などで既習事項の繰り返し学習に努め、算数では目標を達成することができた。しかし、国語の記述力はまだ付いていない。日常の作文と合わせて、意見文や要約文を書く経験を増やしていきたい。
書く力	12月	「書くこと」に関する児童の意識調査アンケートで、肯定的な児童が80%に達するようにする。	100マス作文に取り組み、自分の考えをまとめたり表現したりする。また、字数などの条件に合わせて書くようにして、授業の中で書く時間を必ず確保する。	「書くこと」が好きな児童の割合が80%以上となったのが2学年→3学年、文章構成を意識して書いている児童の割合が80%以上となったのが、1学年→4学年へと増えた。	B	「書くこと」が好きな児童の割合は、70%程度にとどまった。文章構成を意識して書いている児童の割合も70%程度であった。	C	書くことには慣れてきたが、取り組みがマンネリ化してしまっただけで、80%以上には届かなかった。書く視点を新たに設定したり、よい作文に出会わせたりして、楽しさをもう一度感じさせたい。「書き方」についても力を付けられるようにしていきたい。
授業での話し合い活動	12月	「話し合い活動」に関する児童の意識調査アンケートで、肯定的な児童が80%に達するようにする。	板書や授業の流れを構造化して教師の指示を減らし、児童が主体的に活動(自分たちで解決する)時間を十分に確保する。	3年・5年では、全ての項目において肯定的な回答が80%を上回った。他学年においても、話し合い活動を行っていると感じる児童は、80%に到達した。	A	話し合い活動を行うと考えがよく分かると思えた児童が、1・2・5年生で80%以上に達した。	A	話し合い活動が好き・嫌いだけでなく、その効果(よさ)を感じられる児童が増えた。来年度も話し合い活動を意識して取り入れるとともに、考えを認め合える話し合いヘスティブアップできるような工夫をしていきたい。

※達成度 「S:目標を大きく上回った(100%超)」A:目標を十分達成できた(85%以上100%未満)」B:目標を概ね達成できた(70%以上85%未満)」C:目標をある程度達成できた(50%以上70%未満)」D:目標をあまり達成できなかった(30%以上50%未満)」E:目標を達成できなかった(30%未満)」

小中連携の取組	保護者・地域へ理解・協力を求めること
・中学校ブロックで期間を合わせて、ノーメディアチャレンジに取り組む。 ・中学校ブロックで、「家庭学習の100%提出」「チャイム同時スタート・チャイム同時終了」「授業の中に学び合い」を重点として取り組む。 ・小中間による授業公開・教科研修・情報交換を行う。	・ノーメディアチャレンジ週間に合わせて親子読書を推進し、家庭の協力を得られるようにする。 ・「家庭学習のすすめ」や「自主学習の手引き」を家庭に配付し、家庭での学習時間の十分な確保を目指す。 ・ノーメディアチャレンジで、テレビ等の視聴時間削減を呼びかける。